

安方棧橋 (担当：村上)

こんにちは。歴史資料室の村上です。

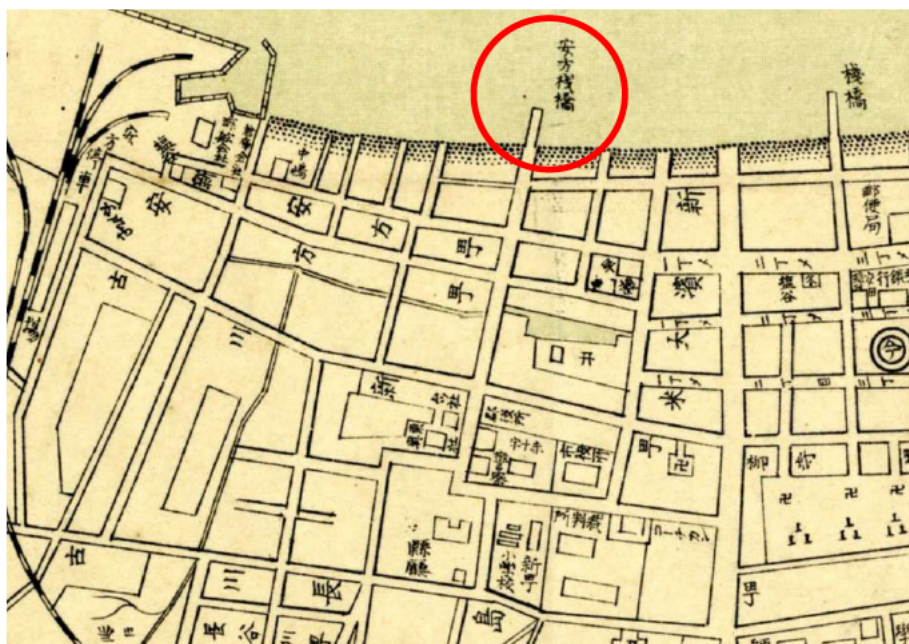
先日、安方棧橋についてのお問い合わせを頂き、建設の過程を調べてみたところ、新しい発見がいくつかありました。今回はその成果をご紹介します。

安方棧橋とは明治44年(1911)の8月から9月にかけて行われた皇太子(のちの大正天皇)の北海道行啓に合わせて建設された棧橋です。この時、皇太子は東京から青森まで鉄道で移動し、青森からは軍艦に乗って北海道へと向かっています。この軍艦に乗艦する際に利用したのが安方棧橋でした。

安方棧橋の建設工事は明治44年5月に始まりました。工事を落札したのは富樫文治で、全国で「幾多の大事業」を請け負ってきた人物だといえます(『東奥日報』明治44年5月3日付)。富樫は東京神田で土木建築請負業を営んでおり、日本銀行小樽支店(明治45年竣工 現日本銀行旧小樽支店金融資料館)の建設を請け負ったことで知られています。安方棧橋の建設を請け負った当時は、まさに日本銀行小樽支店の建設工事を進めている時期でした(駒木定正「日本銀行小樽支店の明治42年における建築請負契約について」)。

安方棧橋は6月中に完成する予定でしたが、設計変更などの影響で工事に遅れが生じ、7月中旬に完成しました(『東奥日報』明治44年7月14日付)。さらに、棧橋へ続く道(県庁通り)に松を植えるなど、皇太子を迎える準備が進められました。

そして、8月19日午後5時40分、皇太子が青森駅に到着しました。駅正面で人力車に乗ると新町通りを東へ進み、県庁通りで北へ曲がり、安方棧橋へと向かいました。ただし、棧橋から直接軍艦へ乗ることはできないため、水雷艇に乗って軍艦まで移動しています(『東奥日報』明治44年8月20日付)。



安方棧橋周辺

(明治44年「青森市全図」、歴史資料室蔵)

この日、安方棧橋には八甲田山麓の日陰かつら（ヒカゲノカズラ）を用いた装飾やさまざまな色の電灯が取り付けられました。棧橋やその周辺で行われたイルミネーションの光が海面に映り、とても美しい光景であったといえます。さらに、棧橋沖合の海上では花火の打ち上げも行われ、棧橋周辺には大勢の市民が集まったそうです。

このように人々の関心を集めた安方棧橋でしたが、大正7年（1918）には解体されてしまいました。その背景には大正4年に始まった青森港の第一期修築工事がありました。工事に伴って安方棧橋周辺で浚^{しゅんせつ} 渫を行うことになり、棧橋を解体する必要が生じたのです（『東奥日報』大正7年5月16日付）。こうして安方棧橋は完成からわずか7年でその役目を終えました。



安方棧橋
（『目で見る青森の歴史』より）